



平成 27 年 3 月 13 日

モーダルシフト取り組み優良事業者の受賞者を発表

一般社団法人日本物流団体連合会は、平成 26 年度に設けた「モーダルシフト取り組み優良事業者公表・表彰制度」に基づき、今年度の受賞者などを決定した。初めてのモーダルシフト最優良事業者賞(大賞)は、センコー株式会社が受賞した。

物流連は平成 15 年より、モーダルシフトに取り組む優良事業者を公表してきたが、今年度から優良事業者の表彰を中心とする制度に移行した。

これは、物流業界における人手不足が深刻化する中で、環境負荷の低減のみならず、労働生産性向上の観点からも大量輸送機関の活用が重要であるため、他の模範となる事業者を表彰し、モーダルシフトをさらに促進しようとするものである。

今回応募があったのは 10 者 19 件であり、従来の公表制度への応募件数と比較すると大幅に増加した。受賞者は「モーダルシフト優良事業者選定委員会(委員長：東京女子大学教授 竹内 健蔵氏)」での審議を経て選定された。

表彰事案の概要は別紙の通りである。

表彰式は、3 月 25 日(水)17 時より、霞山会館にて開催される。

なお物流連は、受賞者とならなかった事業者も、応募基準を満たしている場合には「モーダルシフト取り組み優良事業者」として認定・公表を行う。

以上
事務局：笹山

モーダルシフト取り組み優良事業者 受賞案件の概要

1. モーダルシフト最優良事業者賞(大賞) (表彰1社)

被表彰者：センコー株式会社

功績事項：新規案件開拓に伴うモーダルシフトによる輸送の大幅な効率化
の実現

センコー(株)は、複数の荷主に対して鉄道輸送による輸送効率化を提案し、3件のモーダルシフトを実施した。

1. 従来セミトレーラー(ノルディックローリー)を用いて輸送していたポリスチレンを、新たに開発したバルクコンテナを用いた鉄道輸送に転換した。従来の輸送手段と比較して積載量を増加し、配送回送を削減。10t車1600台分の貨物を鉄道へシフトさせ、環境負荷低減と共に、輸送コスト削減にも寄与した。

2. 富山から鹿児島に向けて輸送していたシステムバスを、12ftコンテナによる鉄道輸送に切り替えた。従来は幹線トラックにて輸送し、福岡で積み替えを行い輸送していたが、鉄道コンテナによって直送が可能となり、輸送を効率化した。

3. 九州内の各酒造メーカーから全国拠点の物流センターへ焼酎等を供給する際の輸送について、輸送効率の改善を行った。従来各メーカーが独自の輸送手段で各物流センターへ直送していた商品を、混載集荷をした上で一旦集積センターに集め、12ftコンテナを利用した鉄道輸送による拠点間輸送へと転換した。

いずれの案件も、輸送における環境負荷の低減、輸送手段の効率化及びコスト削減、人手不足の解消と、物流業界を取り巻く課題の解決が期待される、先進的な取り組みである。

2. モーダルシフト取り組み優良事業者賞

①改善部門（表彰1社）

被表彰者：福山通運株式会社

功績事項：幹線区間の輸送において、前年度実績を上回る鉄道・海運での輸送実績を達成

福山通運（株）は、2013年3月より東京～大阪間に専用列車「福山レールエクスプレス号」の運行を開始するなど、モーダルシフトに積極的に取り組んだ。

拠点間の幹線区間における輸送量について鉄道・海運の占める割合は、平成24年度における実績が全輸送量中1.6%であったのに対し、平成25年度においては3.6%を達成した。前年度と比較し、2倍以上、2ポイントのモーダルシフト輸送比率の改善を実現した。

②継続部門（表彰3社）

被表彰者：山九株式会社

功績事項：幹線区間の輸送において、鉄道・海運の利用比率が3年連続で40%超えを実現

山九（株）は、2011年度より4年連続し、幹線区間における貨物総輸送量のうち鉄道・海運の利用比率40%超という基準を達成した。

被表彰者：日本通運株式会社

功績事項：幹線区間の輸送において、鉄道・海運の利用比率が3年連続で40%超えを実現

日本通運（株）は、当該公表制度を開始した2003年度より12年連続し、幹線区間における貨物総輸送量のうち鉄道・海運の利用比率40%超という基準を達成した。

被表彰者：日本石油輸送株式会社

功績事項：幹線区間の輸送において、鉄道・海運の利用比率が3年連続で40%超えを実現

日本石油輸送（株）は、当該公表制度を開始した 2003 年度より 12 年連続し、幹線区間における貨物総輸送量のうち鉄道・海運の利用比率 40%超という基準を達成した。

③新規開拓部門 （表彰2社・公表1社）

被表彰者：株式会社日立物流

功績事項：新規モーダルシフト案件の実現とその継続

（株）日立物流は、従来トラックにて行っていた輸送案件 2 件のモーダルシフトを実施した。

1. 東京～栃木間における海上コンテナのショートドレージを、横浜荷揚げに変更の上、鉄道に転換した。

鉄道は 500km 以上の長距離においてその特性を発揮できると言われているが、100km 強の中距離でも鉄道への転換が可能であることを示した。従来の石油列車に増結する形で輸送し、輸送ダイヤに大きく手を加えずに新たな海上コンテナ鉄道輸送を実現した。

2. 山形～大分間のトラック直送案件を、茨城～福岡間で RORO 船を利用する方式へ転換した。

日本海側の港から九州へ向かう航路は無かったものの、太平洋側まで陸送したうえ、1000km 以上の RORO 船航路を活用した。10 t トラックからセミトレーラーシャーシの航送に振り替えたことにより、一ヶ月当たりの運行回数を 9 回から 6 回へ削減し、効率化した。

被表彰者：株式会社丸運

功績事項：新規モーダルシフト案件の実現とその継続

（株）丸運は、従来トラックにて行っていた輸送案件 2 件のモーダルシフトを実施した。

1. 川崎を經由して輸入されるアパレル関連商品の納品を、4 t 車による直送から 12ft コンテナを使用した鉄道輸送に転換した。遠隔地である九州・北海道

への輸送を扱っており、大幅なCO₂排出量の削減を実現した。

2. 千葉からの介護ベッドの輸送について、従来、路線便や10t車貸切り便にて輸送していたものを、全国的に鉄道コンテナを使用した輸送に転換した。特に需要の多い北九州地区向けには、10t車と同等の積載が可能な31ftコンテナを活用した。

④有効活用部門（表彰1社・公表1社）

被表彰者：日本梱包運輸倉庫株式会社

功績事項：モーダルシフト実施による輸送の大幅な効率化の実現

日本梱包運輸倉庫（株）は、モーダルシフト案件を2件実施したが、いずれも輸送に携わる従業員への負担軽減と、輸送の効率化を重視した案件である。

1. 宮崎～宮城間にて実施していた10t車直送によるタイヤ輸送を、福岡～宮城間にて31ftコンテナを用いた鉄道輸送に転換した。1400kmを超える長距離輸送を鉄道へ転換し、発地のトラックと従業員が地域内輸送に専念できるようになり、車両運用効率が向上し、従業員の負担も軽減された。

2. 三重～新潟間でキャリアカーにて行っていた軽自動車の完成車輸送を、12ftコンテナを使用した鉄道輸送に転換した。キャリアカーは荷物の性格上帰り荷の確保が難しかったが、鉄道への転換によってより効率的な運行を実現した。

また、この案件では、新潟へ回送されていた鉄道コンテナが有効に活用されることとなった。

※モーダルシフト改善継続部門について、今年度分は該当無し。

※以下の事業者の応募案件は表彰対象とはならなかったが、応募基準を満たしていたため、モーダルシフト取り組み優良事業者として認定・公表を行う。

- ・日本通運株式会社
新規開拓部門（4件）
- ・株式会社日陸
有効活用部門